

令和3年5月15日 / 毎月1回15日発行

医師と医師会を結ぶ情報紙

# 都医 NEWS

Vol. 663

東京商工会議所との意見交換会	01
底流 / 地区医師会長連絡協議会報告	02
定例記者会見 / 功労賞および医学研究賞・グループ医学賞受賞者	03
医療とICTシンポジウム ほか	04
みどりの広場 ほか	05
ふれあいポスト	06
都医からのお知らせ ほか	07
地区医師会長からの一言	10

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部77円



有明体操競技場・2020東京オリンピック会場

## 東京商工会議所との意見交換会

### 感染対策と経済活動の両立を

東京商工会議所と東京都医師会は4月2日(金)、東京商工会議所において初めての意見交換会を開催した。

**感染症への対応を的確に行うために**

東京商工会議所の三村明夫会頭は挨拶の中で「2月に23区内の中小企業を対象に実施した調査では、7割の企業が経営への悪影響が生じていると回答している。事業者の心が折れてしまわないよう、ワクチン接種や医療提供体制の充実を図ることで、経済活動は徐々に正常化するという明るい見通しがほしい。」

2月16日には東京都、東京商工会議所、東京都医師会の3者で新型コロナウイルス感染症対策の徹底した取り組みに向けた共同宣言を発表した。医療体制の強化に向けて経済界ができることを考えるとともに、医療関係者に経済の実態を知ってもらうことで感染症への対応を的確に行っていく。

今後も定期的、継続的に医療現場の現状や課題、経済界が果たすべき役割について活発に意見交換をしていきたいと述べた。

これを受けて尾崎治夫会長は「全国的に感染者数が増加してきている中で、経済界と医療界がお互いの立場を理解

し、意見交換をしながら今後の施策を考えていくことは大変重要だ。

これまで東京都医師会は、飲食の機会が感染につながるケースが多いため、飲食店には規模に応じて安心して休めるようなしっかりとした補償をするべきと主張してきた。

感染症を早めに抑え込むことが本当の意味で経済の回復につながることを考えている。今後も新型コロナウイルス感染症の収束に向けてどのような協力ができるかを一緒に考えていきたい」と心じた。

#### 東京都の医療現場の現状

猪口正孝副会長は「これまで日本は医師数が少ない中で高齢社会に対応するため、病床を高度急性期、急性期、回復期、慢性期という機能に分化し、回復期、慢性期には人員を薄く、高度急性期、急性期には人員を厚くすることで対応してきた。東京は病院が多い、病床が多いと思われるが、都内に647病院、約10万床ある中で、新型コロナウイルス感染症に対応できる病床は4万8千床しかない。医師一人が育つのに10年かかるため人員をすぐに増やすことはできず、もともと医師が少ない回復期、慢性期病院から転用することも難しい。病床についても、新規病

#### 新型コロナウイルス感染症への対応と企業支援の取り組み

東京商工会議所の石田徹事務理事は「全国を対象にした調査では、3月の時点で売上が感染拡大前と比べて3割以上減少した中小企業が全体の3割超で大変厳しい状況になっている。企業からは、来客数が減少したため臨時休業を余儀なくされている、売上げが激減した、イベント中止を受けて業界全体が壊滅的なダメージを受けているなど、非常に苦しい状況を訴える声が多く聞かれている。また、上場する外食企業の9割以上の事業者で売上が減少し、財務体質も著しく悪化しており、全産業における休廃業の数は過去最多になっている。経済活動を止めることになり



意見交換会の様子

経済活動を止めることになり(2面に続く)

廃業などが増加する恐れがある。とりわけ緊急事態宣言のため、感染対策と経済活動の両立の道を探っていき



意見交換会のあと記者団の取材に応じる三村会頭と尾崎会長

いと考えている」と述べた。そして、東京商工会議所では6つの柱と5つの情報掲示板を策定し、資金繰りを中心とした経営支援、テレワークの推進、企業における感染症対策の推進支援を行うとともに、行政への要望活動を行っていることを説明した。

検査体制の充実を

最後に尾崎会長は「定期的に病院や高齢者施設でPCR検査などを行い、クラスターを防ぐためにどのような形でウイルスが入り込んでくるかを調べる『守りの検査』と、危険性の高い施設で積極的に検査をしていく『攻めの検査』を実施していきたい。飲食店が多く集まる所や若者を検査して、どこにどれくらい感染者がいるかが分かれば、そこを重点的に抑えることができる。新型コロナウイルスの感染拡大のスピードに合わせて対応するためにも、アクリル板や二酸化炭素測定器の設置、対面を避ける、換気の徹底など行政、経済、医療がワンボイスで常に同じことを発信していくことが重要である。経済を回していくためにも検査体制を充実させていきたい」と発言した。

コロナ禍における東京の医療現場の実情および経済界の役割

東京都医師会からは、感染対策の啓発が重要であり、医療的にも経済的にも実効性のある方策を具体的に示すとともに、より分かりやすく発信していきたいとの発言があった。東京商工会議所からは、科学的根拠に基づく情報を訴えていくこと、若者にどう訴え

地区医師会長連絡協議会報告

令和3年4月16日(金)

尾崎治夫会長は挨拶の中で「新型コロナウイルスの新規感染者が先週に比べて1.2倍程度増加している。大阪では変異株が増加しており、今後東京でも同じような感染状況になることは否定できない。ぜひ地域の行政と一緒になって、非常に危険な状態であることを特に若い世代に向けてアピールしてほしい。また、まん延防止等重点措置が実施されていない地域でも人流があるため、3密を避けるなど改めて感染対策を徹底してほしい」と述べた。

都医からの伝達事項

①「ゴールデンウィークにおける診療・検査体制の確保支援事業」および「ゴールデンウィークにおける入院医療体制の確保事業」の実施について

医療機関における人員体制の確保が困難となるゴールデンウィークの新型コロナウイルス感染症の診療・検査体制を確保するため、東京都では「ゴールデンウィークにおける診療・検査体制の確保支援事業」および「ゴールデンウィークにおける入院医療体制の確保支援事業」を実施する。より多くの医療機関に協力してほしい。

②「新型コロナウイルスワクチンについて」

ワクチンの出荷量や配送スケジュールからみた接種スケジュールのイメージ案を示すので、参考にしてほしい。

③「東京都がん検診の精度管理のための技術的指針」の改正について

日本肺癌学会の「肺がん検診の手引き」の改訂、国立がん研究センターの「仕様書に明記すべき必要最低限の精度管理項目」および「事業評価のためのチェックリスト」の改定を反映し、東京都の指針が改正された。また、令和2年度に策定した「乳がん検診精密検査依頼書兼結果報告書」も都の指針に掲載された。今回改正された指針は東京都のホームページに掲載されているので、ダウンロードして活用してほしい。

④「新型コロナウイルス感染症の軽症者等に係る宿泊療養施設の活用促進について」

PCR検査などの陽性者へ結果を連絡する際に、保健所から宿泊療養を勧められた場合は、健康観察を行っている宿泊療養施設を利用するよう勧奨してもらう取り組みを実施する。新宿区医師会および墨田区医師会において先行実施するので協力してほしい。

⑤「新型コロナウイルス感染症の自宅療養者に対する医療支援について」

体調が悪化した自宅療養者が地域の医師などによる電話やオンライン、訪問による診療を速やかに受けられるよう、都内各地域において地区医師会や夜間休日往診などを実施している事業者などが連携し、地域の医療体制に応じた自宅療養者向け医療支援システムの構築を開始する。

⑥「地区医師会からの報告」

① 中央ブロック  
② 城東ブロック  
③ 城西ブロック  
④ 城南ブロック  
⑤ 城北ブロック  
⑥ 一般家庭用冷蔵庫におけるコロナワクチンの保管について (練馬区医師会)  
⑦ その他  
⑧ ワクチン集団接種出席費について (神田医師会)

底流

新型コロナウイルス感染症における民間病院バッシングについて思うこと

日本は病床が多い。しかし数多いベッドが患者を治療するのではない。数少ない医師や看護師たちが治療にあたるのである。

昨年の夏頃に東京都ではいわゆる第2波が到来した。その頃は感謝の一斉拍手を取り上げるなど、当時の医療機関に対する報道はかなり好意的だった。ところが、第3波が始まる昨年末頃から医療界に対して厳しい批判が見られるようになった。欧米に比べると少ない感染者数でなぜ医療が逼迫するのか？病床の数も日本は世界の中でも特に多いではないかという論調である。とりわけ民間病院は、経営上の理由から新型コロナウイルス感染症を受け入れて地域医療構想が進められ

ていないと言われ、今でも一部メディアが繰り返し報道している。それに対して、この記事を読んで皆さんはどう思うだろうか。新型コロナウイルス感染症が拡大する前から、将来に向けて地域医療構想が進められていた。その中心となる考えは、医療機関の役割分担と連携である。病床を高度急性期・急性期・回復期・慢性期に分類し、それぞれの医療機関が地域の中での役割を果たすのか自問し、それを地域で明らかにし、連携していくのである。提供できる医療レベルは医療機関ごとに異なる。この医療機関でも急性心筋梗塞の治療ができるわけではない、がんの集学的治療ができるわけではない。新型コロナウイルス感染症においても同様であり、重症者の受け入れの可否は医療機関の規模、とりわけ人員の多寡が影響す

る。日本は病床が多いというものの、それはアメリカでは病院には含まれないような療養型病床も含まれている。それゆえ見かけ上、日本の病床は多くなっている。しかし数多いベッドが患者を治療するのではない。当たり前だが、医師や看護師たちが治療にあたり、急性期から回復期・慢性期に移行するほど、少ない人員で多くの患者に対応していることを考慮するべきである。民間の医療機関は公立・公的医療機関に比べ、規模が小さい傾向にある。つまり「民間の医療機関は新型コロナウイルス感染症患者の受け入れをしない」というのではなく、「一病床数が少ない医療機関は新型コロナウイルス感染症に対応するのが困難である」のが実態と考える。各医療機関は自院でどのレベルの重症度の患者を受け入れるのか、受け入れられないのであれば、地域で何ができるのか考えたことであろう。このコロナ禍で地域によっては連携が一気に進んだ印象がある。新型コロナウイルス感染症に限らず、今後さらに各地域での役割分担と連携が進むことを切に願う。(土谷明男)

年度に策定した「乳がん検診精密検査依頼書兼結果報告書」も都の指針に掲載された。今回改正された指針は東京都のホームページに掲載されているので、ダウンロードして活用してほしい。

# 毎月第2火曜日開催 東京都医師会 定例記者会見

## ワクチン接種、医療提供体制を整え第4波に備える

東京都医師会は4月13日（火）に定例記者会見を開催し、新型コロナウイルス感染症の第4波に備えた医療提供体制などについて見解を示した。

### 感染予防の徹底を

尾崎治夫会長は「今こそしっかりと感染者の急増を防ぎ、ワクチン接種を円滑に進めることができれば、7月以降には感染者・重症者の減少と、さらなる医療体制の充実が期待できる」と述べた。また「変異株は感染力が強くなり、重症化しやすい。そして若い世代も感染する。全世代の方に感染予防について改めて考えてもらいたい」と都民の協力を求めた。

さらに、時短要請に頼らない新たな飲食店対策として

### 医療提供体制の拡充

猪口正孝副会長は、第3波以上の患者を出さないことが第一としたうえで「第4波に備えて入院調整能力のアップのために都立・公立病院、一般中小病院を専門病院化することなどで受け入れ態勢を強化するとともに、病床稼働率のアップ、回復期病院の活用、宿泊療養の効率化、健康観察

の安全化など医療提供体制を充実させていきたい」と述べた。

### ワクチン接種体制

角田徹副会長は「国は医療従事者等や高齢者向けのワクチンを確保しており、すべての希望者が接種することができる。ワクチンを接種した後も引き続き標準的な感染予防対策を続けることが重要だ。副反応として局所の痛み、発熱や腫れなどがあるが、このような反応は当然起こる可能性があること、理解してほしい。アナフィラキシーへの対応もしっかりと整えている」と述べた。

### 病院・高齢者施設を守るPCR検査

平川博之副会長は、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・介護医療院の職員を対象としたPCR検査事業について「対象施設の約6割が参加し、陽性率が極めて低かった」と報告した。加えて、老健施設での感染症回復後の要介護者受け入れ事業の進捗状況にも触れた。



尾崎会長



猪口副会長



平川副会長



角田副会長

## 令和2年度 東京都医師会功労賞および医学研究賞・グループ医学賞受賞者

3月に「令和2年度東京都医師会功労表彰式および医学研究賞・グループ医学賞受賞記念講演会」の開催を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い中止となった。受賞した先生方に祝意を表するとともに、紙上で受賞者を発表する。

### 功労賞

- 【地区医師会会長（10年在任）】  
佐々木 聡（浅草医師会）
- 【代議員（10年在任）】  
西端慎一（千代田区医師会）  
津布久裕（日本橋医師会）  
市川菊乃（墨田区医師会）  
太田重久（足立区医師会）  
遠藤啓一郎（葛飾区医師会）  
窪田美幸（世田谷区医師会）  
吉本一哉（玉川医師会）  
辻 隆晴（渋谷区医師会）  
溝口雅康（中野区医師会）  
稲葉貴子（杉並区医師会）  
氏家 久（杉並区医師会）  
増田幹生（北区医師会）  
腰塚誠二（北多摩医師会）  
佐々木容三（八王子市医師会）  
石塚太一（八王子市医師会）  
香取公明（立川市医師会）  
長瀬隆英（東京大学医師会）
- 【委員会委員（10年在任）】  
〇母体保護法指定医師審査委員会  
竹田 省（順天堂大学医師会）  
〇次世代医師・女性医師支援委員会  
大澤秀一（日本医科大学医師会）  
〇タバコ対策委員会  
島田和典（中野区医師会）  
作田 学（日本禁煙学会）  
望月友美子（新町クリニック）  
村松弘康（日本橋医師会）

- 〇医療情報検討委員会  
矢田雄滋（中央区医師会）
- 〇広報委員会  
東海林 豊（江戸川区医師会）
- 〇学術委員会  
青木大輔（慶應医師会）  
松岡雅人（女子医大医師会）
- 〇精神保健医療福祉委員会  
羽藤邦利（渋谷区医師会）  
石橋幸滋（東久留米市医師会）
- 〇地域包括ケア委員会  
鈴木 央（大森医師会）  
高瀬義昌（蒲田医師会）
- 〇産業保健委員会  
武林 亨（慶應医師会）
- 〇生活習慣病対策委員会  
市川 雅（府中市医師会）
- 〇都立学校心臓検診判定委員会  
齊藤一郎（世田谷区医師会）  
土井庄三郎（東京医科歯科大学）
- 〇予防接種委員会  
伊藤澄信（国立病院機構本部総合研究センター）
- 〇地域医療推進委員会  
中村 宏（小石川医師会）  
安藤秀彦（世田谷区医師会）
- 〇病院委員会  
山口武兼（板橋区医師会）  
河原和夫（東京医科歯科大学）
- 〇救急委員会  
大桃文知（葛飾区医師会）

### 医学研究賞・グループ医学賞

- 【医学研究賞（3名）】  
〇吉田由理子（東京大学医師会）  
東京大学医学部循環器内科 大学院生  
『Alteration of cardiac performance and serum B-type natriuretic peptide level in healthy aging』  
〇橋本寿之（慶應医師会）  
慶應義塾大学医学部予防医療センター 助教  
『Cardiac Reprogramming Factors Synergistically Activate Genome-wide Cardiogenic Stage-Specific Enhancers』  
〇吉田昌弘（慈恵医師会）  
東京慈恵会医科大学内科学講座 呼吸器内科 助教  
『Involvement of cigarette smoke-induced epithelial cell ferroptosis in COPD pathogenesis』
- 【医学研究奨励賞（6名）】  
〇占部文彦（慈恵医師会）  
東京慈恵会医科大学泌尿器科 助教  
『Large-scale Circulating microRNA Profiling for the Liquid Biopsy of Prostate Cancer』  
〇山中修一郎（慈恵医師会）  
東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科 助教  
『Kidney Regeneration in Later-Stage Mouse Embryos via Transplanted Renal Progenitor Cells』  
〇宮部育重（日本医科大学医師会）  
日本医科大学先端医学研究所

- 細胞生物学 講師  
『Atypical complement receptor C5aR2 transports C5a to initiate neutrophil adhesion and inflammation』  
〇北川一夫（女子医大医師会）  
東京女子医科大学脳神経内科学 教授・講座主任  
『Effect of Standard vs Intensive Blood Pressure Control on the Risk of Recurrent Stroke: A Randomized Clinical Trial and Meta-analysis』  
〇齊木臣二（順天堂大学医師会）  
順天堂大学医学部脳神経内科 准教授  
『A metabolic profile of polyamines in Parkinson disease: A promising biomarker』  
〇森 聡生（順天堂大学医師会）  
順天堂大学医学部脳神経内科 非常勤助教  
『Parkinson's disease-associated iPLA2-VIA/ PLA2G6 regulates neuronal functions and  $\alpha$ -synuclein stability through membrane remodeling』
- 【グループ医学賞（1団体）】  
〇東京都ロービジョンケアネットワーク委員会（神田医師会）  
井上賢治 以下20名（非会員7名）  
『眼科医から福祉施設への患者誘導システム「東京都ロービジョンケアネットワーク」の構築と2年間の運用』

# 第32回 医療とICTシンポジウム

3月13日(土)、第32回医療とICTシンポジウムがオンラインにて開催された。平成31年の第31回までは「ICTシンポジウム」と称されていたが、東京都医師会内部での用語統一の観点から「ICTシンポジウム」と名称変更されたものである。冒頭に尾崎治夫会長より「このシンポジウムは昭和61年に始まって以来、時宜に即したテーマで開催されてきた。今回はオンライン診療や新型コロナウイルス対策としてのICTの利用という講演を行う。また東京総合医療ネットワークの運用を開始しており、今後の進展のためデータの標準化など日本医師会の協力も仰ぎながらさらに普及させていく」と挨拶があった。さらに中川俊男日本医師会長からもビデオによる挨拶があった。

まず、目々澤肇理事からオンライン資格確認についての留意点、電子処方箋の枠組みの決定、東京都多職種連携ポータルサイトやコロナ・インフルエンザWEBシステムの利用開始などについて報告があった。

続いて講演1として、「オンライン診療に対する医師の不安と患者の期待」と題し、野村和至医療情報検討委員会委員より発表が行われた。昨年4月に新型コロナウイルス感染症対策の一環としてオンライン診療および電話診療の規制緩和が行われたが、アン

ケートなどの集計から患者の感染予防としては非常に有用であったこと、しかし初診をオンラインで行うことに対しは賛否が分かれたこと、電話で行うことは有用ではないとの回答が多かったことが報告された。今後の課題としては、動画で咽頭所見を送信することや電子聴診の応用などで診断精度を上げる必要性があること、また診療報酬の面での見直しが必要であることも強調された。

次に、講演2として土屋淳郎同委員会委員長より「新型コロナウイルス感染症対策におけるICTの利用」と題し発表が行われた。自身の体験例から電子聴診を用いて施設入居患者の異常を早期発見



講演の様子



パネルディスカッションの様子

し、適切な入院判断が行われたことが報告された。また、東京都の宿泊療養における状況調査についても体温やSpO<sub>2</sub>測定結果などの健康チェックが電子的に行われ、効果を上げていたことも報告された。これまで、オンライン診療などは「対面診療の補充」という位置づけに留まっていたが、感染予防という視点から今後は「医療DX」、第4の医療として新たな価値創造につながるものと考えていくべきだと結論された。これまでも同様、患者とのふれあいは重要であるが、新型コロナウイルス感染症によってふれあいが難しい今だからこそ必要な変革も受け入れる必要があると結んだ。

講演2では、藤田佳男千葉県立保健医療大学リハビリテーション学専攻作業療法士から「運転技能へのフレイルの影響」と題した講演が行われ、フレイルは運転技能や運転の困難さに一定の影響を与えると考えられ、その背景に注意力や処理速度の低下があり、一概に適性を判断することは困難であると述べられた。



講演する五十嵐理事長

講演に続いて、パネルディスカッションが行われた。当日は、会場に50名以上の参加者があった。司会の平川博之副会長の進行により、はじめに尾崎治夫会長から開会の挨拶があった。引き続き講演1として、三村将慶應義塾大学医学部精神神経科学教室教授から「高齢社会における認知症と運転適性」と題した講演が行われ、高齢ドライバーの現状、法整備に加え、高齢ドライバーの運転を認知機能面でのように評価していくことが述べられた。

講演2では、藤田佳男千葉県立保健医療大学リハビリテーション学専攻作業療法士から「運転技能へのフレイルの影響」と題した講演が行われ、フレイルは運転技能や運転の困難さに一定の影響を与えると考えられ、その背景に注意力や処理速度の低下があり、一概に適性を判断することは困難であると述べられた。

講演に続いて、パネル

## 高齢社会における運転技能・運転環境シンポジウム

4月17日(土)、東京都医師会館において高齢社会における運転技能・運転環境シンポジウムが会場とウェブによるハイブリッド形式で行われた。当日は、会場に50名以上の参加者があった。司会の平川博之副会長の進行により、はじめに尾崎治夫会長から開会の挨拶があった。引き続き講演1として、三村将慶應義塾大学医学部精神神経科学教室教授から「高齢社会における認知症と運転適性」と題した講演が行われ、高齢ドライバーの現状、法整備に加え、高齢ドライバーの運転を認知機能面でのように評価していくことが述べられた。

その後、吉本一哉東京都医師会高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員長を座長としてディスカッションが行われ、運転寿命の延伸について、精神心理学やリハビリテーションの医学的見地に加え、ドライブの楽しみ方、車と人間の新しい関係などについて活発な意見交換が行われた。

## 第2回 東京都新研修医ウェルカム・オリエンテーション

4月7日(水)、オンラインで開催された。昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大により中止となったが、今年はライブ配信という形で開催された。参加者はそれぞれ自宅や勤務先からウェブ上で参加してもらった。落合和彦理事の進行により、冒頭、尾崎治夫会長から挨拶があり、ウェルカム・オリエンテーションの主旨と医師会活動の重要性が述べられた。その後、五十嵐

を紹介し、ドライビングシミュレーターが運転評価だけではなく、運転再開支援の訓練ツールとしての活用が可能であることを報告した。次に加藤哲也カーグラフィック代表取締役社長が、自動車ジャーナリストの立場から海外の高齢ドライバーによるクラッシュカーレースのイベントの実例などをもち、運転の楽しみ、生きがいについて発表した。最後に星野雅弘MOTTECA代表取締役より動画によるeモーターズ

を風隆国立成育医療研究センター理事長から一人をpsychosocialに捉え、支援する医療を目指して」をテーマとした講演があった。講演では、超少子化を見据えた今後の人口問題から、低出生率の成人病胎児期発症説についても触れられ、貧困と健康被害の課題が強調された。さらに、今後の遺伝子治療やAIについても新たな視点から解説され大変有意義な講演となった。

次に目々澤肇理事が「コロナ禍でも医師会は明日の医療人を全力で支援する」と題して医師会の存在意義や事業について詳しく解説した。研修医にとって遠い存在であった医師会活動が身近に感じられるものとなり、これを機に若い医師会員が増えることが期待される。

158 みどりの広場

医療法改正と地域医療

衆議院議員 安藤高夫



東京都医師会の先生方におかれましては、平素よりご理解とご支援を賜り、深く御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症が流行する中、都民の命と健康を守るため献身的に力を尽くしていただいていることに、心からの敬意と感謝の意を表します。ワクチン接種についても多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

高齢者に向けたワクチン接種が始まった一方で、まだ接種を行っていない医療従事者も多く、ご心配をおかけしております。ワクチン需給が世界的に逼迫しているため、国内の接種スケジュールの見通しも立ちにくい状況下ではありますが、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

国会では「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律案」が提出され、審議されています。本法案には「医師の働き方改革」や「各医療関係職種の専門性の活用」、「地域の実情に応じた医療提供体制の確保」などへの取り組みに対する支援の強化などが盛り込まれています。そこで本稿では「地域の実情に応じた医療提供体制の確保」のうち、医師会の先生方の関心が高いであろう「外来医療の機能の明確化・連携」についてお話ししたいと思います。

その前段として、昨年3月に「東京都外来医療計画」がとりまとめられたことをご存じでしょうか。これは、地域で中心的に外来医療を担う無床診療所が都市部に集中するなどの偏在を是正することが必要との考えを背景に、平成30年の医療法一部改正に伴い、国が全国ベースで統一的・客観的に比較・評価した「外来医師偏在指標」を用いて、外来医師多数区域を設定し、外来医療に係る医療提供体制確保の方策を定める計画です。東京都では、地域医療構想調整会議で議論され、とりまとめられました。今後、診療所を新たに開設する場合は、「東京都外来医療計画」に記載された開設場所の二次保健医療圏の外来医療機能の状況を理解するとともに「地域医療への協力意向の確認に

ついて」の提出を、病院・診療所においてCT、MRI、PET、放射線治療装置、マシナリなど医療機器を設置・更新する場合には医療機器共同利用計画書の提出を必要とあります。

そして、本国会で提出された法案の「外来医療の機能の明確化・連携」では「医療機に活用する外来」として透析や日帰り手術、放射線治療などの高度医療を行う外来や、入院前後の検査や治療を行う

の創設等を行う」とされています。具体的な内容は今後明らかになりますが、おおよその内容は医療計画の見直しに際しての検討会の「外来機能の明確化・連携、かかりつけ医療機能の強化等に関する報告書」が参考になるでしょう。

例えば、「医療資源を重点的に活用する外来」として透析や日帰り手術、放射線治療などの高度医療を行う外来や、入院前後の検査や治療を行う

り、外来医療計画と外来機能報告によるデータなどを活用しながら、地域で不足する外来医療機能について地域医療構想調整会議などで検討することになります。医師会員の皆さまには、地域医療構想調整会議をはじめとした協議の場への積極的なご参加や傍聴をお願いしたいと思います。

参考資料

良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律案(概要)  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000731828.pdf>

外来機能の明確化・連携、かかりつけ医療機能の強化等に関する報告書  
<https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000704605.pdf>

東京都外来医療計画  
[https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo\\_hoken/kanren/kyogikai/gairairyoukeikaku.html](https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/iryo_hoken/kanren/kyogikai/gairairyoukeikaku.html)



**掲示板**

**セルフケアの道具箱**  
 ストレスと上手につきあう  
 100のワーク

伊藤絵美 著

豊島区の新名所は、昨年7月に東池袋・サンシャインシティの隣にオープンした「としまみどりの防災公園 イケ・サンパーク」です。造幣局の跡地に建設された区内で最も広い公園で、災害用ヘリポート、備蓄倉庫、非常用自家発電機、耐震性貯水槽、かまどベンチなどを完備。災害時には一時待機場所として2500人の収容が可能で、炊き出しもできます。

園内には広大な芝生が広がり、春には造幣局の歴史を受け継ぐ桜が咲き、約170メートル続くイチョウ並木が季節を彩ります。おしゃれなカフェや店舗、トイレや授乳室の設備があり、子どもの遊び場「としまキッズパーク」も隣接し、子連れで楽しめる憩いの場です。週末には旬の野菜を中心にマルシェが開かれます。11月に開催された「防災機能展示会」では、ヘリポートにヘリコプターが着陸し、中から区長をはじめ来賓の方々が降り立つという画期的なイベントが行われました。

豊島区は消滅可能性都市を克服し、持続可能な、誰もが主役になれる「まちづくり」「国際アート・カルチャー都市」構想が認められ、昨年内閣府より「SDGs未来都市」に選定されました。池袋駅周辺のイケ・サンパークを含む4公園構想とその間をつなぐ「イケバス」(赤い電気自動車)は、文化と賑わいのまちづくりに貢献しています。リフレッシュしたい方は、池袋駅からイケバスに乗ってこの公園の芝生に寝てみてください。心地よい新しい時代の風を感じることでしよう!

コロナ禍でストレスが増えている今、自分で自分を上手に助け、元氣を取り戻していくためのヒントを、認知行動療法の第一人者である著者が、分かりやすく伝えてくれる。

本書は10のテーマに分かれ、それぞれに10のワーク、すなわち合計100通りのセルフケアの方法が示されており、さながらファミレスのメニューのような。読み手が実際にワークに取り組むことが想定されており、メニューを見ながら自分に合いそうなものに取り組みといった柔軟な使い方ができる。ワークの説明も簡潔で分かりやすい。

イケ・サンパークからサンシャインシティ(右)、池袋駅方面を臨む

**としまみどりの防災公園**  
 — イケ・サンパーク

**防災設備にヘリポートも**

**趣味の散歩**

豊島区は消滅可能性都市を克服し、持続可能な、誰もが主役になれる「まちづくり」「国際アート・カルチャー都市」構想が認められ、昨年内閣府より「SDGs未来都市」に選定されました。池袋駅周辺のイケ・サンパークを含む4公園構想とその間をつなぐ「イケバス」(赤い電気自動車)は、文化と賑わいのまちづくりに貢献しています。リフレッシュしたい方は、池袋駅からイケバスに乗ってこの公園の芝生に寝てみてください。心地よい新しい時代の風を感じることでしよう!

(豊島区医師会・猪狩和子)

**知ってますか?**

**ウイルスベクターワクチン**

現在、新型コロナウイルスワクチンとしてmRNAワクチンの接種が行われているが、今後ウイルスベクターワクチンも導入される予定である。ベクターは「運び屋」という意味で、あるウイルスの中に遺伝情報を入れ、ウイルスが細胞に入ることによってその遺伝情報が免疫を作る。エボラ熱のワクチンもウイルスベクターワクチンである。mRNAワクチンの保存は-60℃の超低温保存であるが、ウイルスベクターワクチンは2~8℃でよい。

発行▼晶文社 価格▼1760円

# 心れあいポスト



各地区会報から

府中市医師会

十藏寺晶子

## 私の野球道

17歳のころ、高校も行かず、すっかりグロしていた私。自分が何をしたいのか分からず、家にいて自営の両親と顔を突き合わせているのは気まずかった。日中仕事に出ている兄の50ccバイクをこっそり拝借して、行き先のないドライブ。この日は江戸川の河川敷に腰を下ろした。恐ろしくいい天気、河川敷の心地よい風の中、バーベキューの傍らにぎやかに草野球をするおじさん、おばさんの集団がいた。後で聞いたが、河川敷近くの商店街の懇親会とのことだった。平日の昼近く、女子高生がひとりで何をしているのかなどと無粋なことは一言も聞かず、よほど物欲しそうにしていたのか、草野球に混ぜれと3塁ベースから首に巻いたタオルで汗を拭いながらおじさんが手招きしてくれた。外で食べる肉はうまいし、思いのほか草野球ってめちゃくちゃ楽しい。そうだ、野球しよう。

当時、ネット情報網はなく、今でこそ中高大学生は部活があったり、女子社会人野球リーグが存在しているが、女がソフトボールではなく、草野球をやるという環境を探すのは難しかった。

そんなある日、来る日も来る日も何をするでもなく家でゴロゴロしている私を寛容に見守る母が、新聞の募集欄に『軟式野球やりたい女子、募集!! ドジャース』の文字を発見。私はすぐに受話器をあげた。指定の日、多摩川河川敷に。チームのメンバーは16歳から40代半ばまでの学生から主婦、栄養士に薬剤師、保険セールス、整備士、看護師、保育士、グラフィックデザイナー、パン職人などなど、今思い出しても多彩なメンバーだった。およそ今まで見てきた小さな世界ではな

く、みんないろんな仕事を楽しんでやっていた。野球の腕前はそこそこだったけど、加盟していた女子軟式野球連盟は、それこそ春だ、夏だ、秋だと言っては地域予選リーグ、全国大会と私たちにやる気というお尻たたきに余念がなく、突き動かされるようにみんな練習に明け暮れていた。そんな仲間に教えられ、助けられ私も無事!? 脱線し続けることをやめた。

今の私はといえば、そのころの青春が忘れられずに東府中病院でレクリエーションと職員をだましてソフトボールチームを結成し、秋に行われる府中の中小企業のソフトボール大会に参加している。うちの職員は95%以上が女性で、男を探す方が大変。工務店さんのイカツイ男子チームと互角に戦うべく、府中の森グラウンドで練習をしているが、まだその成果はない。今年こそはと、シーズン初めの練習は明日から始まる。さあ、グローブを磨こう。

(府中市医師会会報 第607号から抜粋)



希望の架け橋

武蔵野市医師会 藤田光裕

# 無 声 拜 聴

## 医療馬鹿が憂う日本

バイデン政権が、「パリ協定」に復帰した。温暖化抑止に大きく舵が切られることが決定したと報道されている。単純に考えれば、アメリカ再参入は歓迎されることだろう。しかしながら、この報道の真実は、日本のビジネスモデル崩壊につながる重大な危機ではないかといわれている。

カーボンニュートラルによって、日本の経済を支えてきた自動車業界が崖っぷちに立たせられていると懸念している人がいる。その理由は、二酸化炭素排出量が総和（ネット）で判断されるということである（EV車のみの二酸化炭素排出量だけではなく、部品作りにかかる電気生産のための二酸化炭素排出量の総和）。ネットを達成できない日本では部品を作り日本を組み立てた車と、ネットを達成するフランスの工場で作られた同じ車はどちらが良い車だろうか。フランスで作られた車が良いということになるのである。

アメリカの「パリ協定」参入によって、日本のビジネスは崩壊し、従業員の雇用がでなくなるといふシナリオである。この解決の力を握るの

は、国家のエネルギー政策になるだろうと自動車業界は考えているようである。

日本一高い平均年収の港区は、サンフランシスコの平均年収と比較すると、なんと低所得者に分類されるというショッキングなニュースが飛び込んできた。日本の平均年収は下がり、大国と言えるような時代は過ぎ去ってしまった。貧しい国になってしまっている。「貧しい国になってしまった」と、また産業崩壊への危機感を最近のニュースで感じ、医療馬鹿である私でさえも将来の日本を憂えてしま

（東海林豊）

# コロナ禍で日本人の日常が変わった

新型コロナウイルス感染症流行下の自粛が日本人の生活にどのような影響を及ぼしたかをテーマにして厚労科学特別研究事業に取り組む機会を得た。この研究では、第一次緊急事態宣言が発出された2020年の3月下旬から5月下旬を振り返ってという条件つきで、20歳から69歳の日本人男女1万人を対象とした調査を実施した。

自粛生活を余儀なくされた当時、メディアを通じてさまざまな憶測が流れたことはまだ記憶に新しい。若者たちが「にんしんSOS」に殺到したこと。自粛下において恋人間の暴力や家庭内暴力が頻発したこと。果たして真実はどうなのだろうか。調査結果の一部を紹介したい。

- ①自粛下において、「充実していなかった」が男女ともに6割を超えているが、「充実していた」との回答も男性37.2%、女性38.7%。「充実していた」と回答した男女に共通しているのは、既婚、パートナーの存在、収入増、セックス回数が増えた、男性は「子供がいる」。自粛下でも孤立していなかったというのが「充実」につながったのではないかと。
- ②パートナー間の暴力は、自粛下「減った」が26.6%、「増えた」が17.7%で、自粛下では暴力が増えるという仮説を覆す結果となった。
- ③自粛下、セックスの回数が「変わらなかった」は39.0%だが、「していない」49.8%、「減った」7.9%、「増えた」3.3%。低下の要因として「外出を控えていた」「その気になれなかった」が7割近くを占めた。2020年の出生率が低下した理由がうなずける。

これらの結果を踏まえて以下政策提言した。

- ①自粛下でも充実した生活を送れるように、収入を減少させない努力と、人と人とを分断させない、孤立させない施策が求められる。
- ②パートナー間の暴力が、「自宅で過ごす時間が増えた」「休日が増えた」などと関係することを考慮すると、在宅勤務を推奨するだけではなく、暴力を回避するための施策を講じる必要がある。

（文責：北村邦夫）

# 感 染 症 豆 知 識

東京都医師会  
感染症予防検討委員会

## 都医からのお知らせ INFORMATION

### 第124回 慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

問合先 慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内 生涯教育研修セミナー事務局  
TEL: 03-5363-3611 E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

日時▶6月26日(土) 16時~18時50分 形式▶Web配信

講演会▶『血液疾患の最新のトピックス』

モデレーター▶片岡圭亮(慶應義塾大学医学部内科学(血液)教授)

対象▶慶應義塾大学医学部、三四会、慶應医師会、慶應義塾大学関連・紹介病院、東京都地区医師会に所属する医師

参加費▶無料・事前登録制(申込多数の場合は先着順となります)

※詳細は慶應義塾大学医学部のWebサイト(<http://www.med.keio.ac.jp/>)の「ニュース」にて後日お知らせします。

取得単位▶日医生涯教育制度参加証交付1.5単位(CC:0、8、73)

次回セミナー開催予定▶10月23日開催予定

## 医師国保からのお知らせ

### ~加入資格を喪失した場合は、必ず届出が必要です~

※被保険者証は返還してください

下記に該当した場合は、添付書類、被保険者証とともに医師国保組合へ届出をお願いいたします。

#### 〈資格喪失の届出が必要な場合〉

- 第1種・第3種組合員(医師)が医師会を退会、又は医療の業務に従事しなくなったとき
- 第2種・第4種組合員(従業員)が退職したとき
- 家族が世帯から転出したとき
- 定められた地区外に住所を異動したとき

各種届出に必要な書類は、ホームページよりダウンロードできます

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

FM93 AM1242 ニッポン放送 月曜から金曜 あさ6時15分頃から放送中!


『モーニングライフアップ今日の早起きドクター』

ニッポン放送(AM1242kHz/FM93.0MHz) 朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

■番組ホームページ <http://www.1242.com/cozy/>

■ポッドキャスト <https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor>

飯田浩司の OK! Cozy up!



## 日本医師会 医師年金 スマホ・パソコンで簡単手続き

加入資格は日本医師会会員で64歳6カ月未満の方です(申込みは、満64歳3カ月までをお願いします。)

医師年金 検索

アニメーションで仕組みを確認



シミュレーションで保険料を試算



一括払専用加入申込書プリントアウトで申込み(保険料のお支払いは後日ご案内します)



※重要事項説明書をよくお読み下さい(申込書の3、4ページに記載)

お問い合わせ先

日医年金・税制課 ☎ 03-3942-6487(直) (平日9時半~17時)

# 日本医師会生涯教育講座

新型コロナウイルス感染防止のため、  
**事前申込制**とさせていただきます。

日時 令和3年6月17日(木) 午後2時～5時

場所 東京都医師会館 2階講堂

(千代田区神田駿河台2-5)  
TEL:03-3294-8821(代表)

オンライン  
同時開催

【申込方法】研修申込システムにて申込

【定員】会場開催：50名  
オンライン開催：100名

【申込締切】6月15日(火)

【問い合わせ先】

東京都医師会  
広報学術情報課

※詳細は都医ホームページを  
ご確認ください



日本医師会生涯教育制度 合計2単位

カリキュラムコード 10、83

日本内科学会認定総合内科専門医更新単位 2単位

## がん免疫療法(1-10)の時代に入った 転移性腎細胞癌に対する薬物治療

座長 東京都医師会理事

落合和彦

慶應義塾大学医学部

泌尿器科学教室教授

大家基嗣先生

順天堂大学医学部

泌尿器科学講座教授

堀江重郎先生

東京都医師会  
株式会社ツムラ  
共催

### 新しい時代を迎えた転移性 腎細胞癌に対する薬物療法

大家基嗣先生

転移巣を伴う腎細胞癌に対しては、2008年に tyrosine kinase inhibitor (TKI) と呼ばれる血管新生阻害薬である sorafenib と sunitinib が相次いで認可され、分子標的薬の時代に突入した。さらに、2016年に免疫チェックポイント阻害薬である nivolumab が加わった。逐次治療による治療、つまり TKI 治療後に

nivolumab を行うことが基本であったが、2018年にファーストラインの治療として nivolumab と ipilimumab の併用による治療が認可され、2019年には axitinib と pembrolizumab、あるいは axitinib と avelumab の併用療法が認可された。これにより、腎細胞癌のファーストラインの治療は免疫複合療法が基本となった。

### がん免疫の新しい展開

堀江重郎先生

コロナ禍において、有効なワクチン接種がパンデミックの終息に期待されている。

がん治療においては免疫チェックポイントとその阻害剤の発見により、免疫療法ががん薬物療法の主役を務めるようになってきた。発がんに関わる分子の多くが、ウイルスから発見されてきたことから、ウイルス感染症とがんには多くの共通点がある。そして漠然

と免疫力と呼ばれている、個体の免疫応答がいずれにおいても治療の成果を左右する。

この講演では、免疫力に関係する細胞や分子の新しい理解、mRNA ワクチンに代表される新しいテクノロジーとがん治療への応用、さらに従来代替医療と分類されてきたもののがん免疫の個別化医療の可能性があることを述べる。



## 地区医師会長からの一言 新型コロナウイルスへの 対応について

東久留米市医師会長 熊野雄一



令和2年8月より東久留米市医師会長を拝命しました。東久留米市は人口約11万人、武蔵野台地の中央に位置し、市内を流れる落合川と南沢湧水群は「平成の名水百選」に都内で唯一選ばれた自然豊かな町です。令和2年に市制50周年を迎え、さまざまな祝賀行事が予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。漫画家の手塚治虫さんが晩年を市内で過ごされたという縁があり、漫画ブラック・ジャックのキャラクターが描かれた記念マンホールが50周年事業で作られ、市内各所に設置されました。

当医師会は会員数84名と小さな医師会です。市内には4つの病院があり、それぞれ専門性を生かし地域医療に貢献をしています。しかし、市内の病床数は近隣市よりかなり少ない状況です。市内で医療が完結しないこともあり、当医師会にとっては二次医療圏の病院や医師会との連携はとても重要です。小児初期救急医療や脳卒中、在宅医療など二次医療圏で顔の見える関係を構築し、密接な地域連携を行っています。新型コロナウイルス感染拡大に対しては、地域の中核病院である公立昭和病院(小平市)発熱外来でのPCR検査を当医師会員(週1回)が担当し、微力ながら病院の負担を減らすよう協力をしています。

その他、当医師会におけるコロナ対応の現状について説明します。

### ①PCR検査センター設立(令和2年5月~6月)

東久留米市スポーツセンターで平日午後1時~3時にドライブスルー方式で行いました。

### ②市内23医療機関でのPCR検査(令和3年7月~)

現在は、「診療・検査医療機関」としてPCR検査(主に唾液)を行っています。

### ③軽症者宿泊療養事業への医師派遣

各医師会と協力し、ホテルなどの宿泊施設またはリモートでの健康管理を行います。

### ④公立昭和病院発熱外来でのPCR検査(前述)

### ⑤介護・障害者サービス事業者等におけるPCR検査補助事業

介護事業者等でコロナが発生した際に、行政検査の対象外となる従事者や利用者に対して市内医療機関でPCR検査を行い、その費用を補助することで事業所等での感染拡大防止を図ります。

### ⑥コロナ情報の発信

市民に対しては、「FMひがしくるめ」の医療番組(医師会提供、週1回)で市内の感染状況や今後のワクチン接種等について放送しています。会員に対しては、日々更新されるさまざまな情報を整理し、「週間コロナニュース」として発刊しています。会員からの疑問や要望等はMCSを利用し、意見交換を行っています。

### ⑦今後

#### 1) コロナワクチン接種

各医療機関での個別接種と市内施設での集団接種を予定しています。医師会が基本型接種施設となり、各接種医療機関にワクチンの配送をするため、その準備に追われています。

#### 2) 自宅療養者への対応

緊急事態宣言解除により、第3波のように病院や保健所が逼迫する可能性があります。保健所とも連携し、市内のかかりつけ医や訪問看護師が自宅療養者の体調を電話等で確認し、休日、夜間は必要に応じて在宅訪問医が自宅へ往診する体制を整えています。

#### 3) 災害時の対応

台風等の風水害時は、避難所以外に医療救護所を開設し発熱避難者に対応します。地震等の大規模災害については今後の課題です。

この号が出る頃には、ワクチン接種が本格化し、各医師会もご苦労されていることと思います。新型コロナウイルス感染収束に向けて、各医師会、行政がしっかりと準備をし、ワンチームで取り組んでいきましょう。